

亜くろいし 市議会だより



第14号
平成28年9月1日発行



宮古市議会議員の皆さんが姉妹都市締結50周年を記念して来黒（撮影協力：もつけ同志会）

福士幸雄議員が 全国市議会議長会から表彰



福士幸雄議員が、全国市議会議長会から、市議会議員として25年の長きにわたり市政の発展に尽くされた功績により、特別表彰されました。

目次

- 姉妹都市議会議員交流など・・・2
- 定例会の概要・・・・・・・・3
- 定例会一般質問など・・・4～6
- 議員活動報告など・・・・・・・・7
- 議会報告会・・・・・・・・8

平成28年第2回定例会の概要

平成28年第2回定例会は6月9日から21日までの13日間にわたって開かれ、市長提出の18報告・7議案を、慎重な審議の上、いずれも原案どおり承認・報告・可決・同意しました。
各議案の議決結果と各会派の賛否一覧は下記をご覧ください。

第2回定例会の報告・議決結果と各会派の賛否一覧（○は賛成、●は反対）

番 号	件 名	会 派 名	自民・公明 クラブ	黒石市民 クラブ	日本 共産党	高佑会	新政会	議決結果
報告第7号	黒石市国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について		○	○	●	○	○	承認 (起立多数)
報告第8号	黒石市税条例等の一部を改正する条例制定について		○	○	○	○	○	承認
報告第9号	平成27年度黒石市一般会計補正予算（第6号）について		○	○	○	○	○	承認
報告第10号	平成27年度黒石市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）について		○	○	○	○	○	承認
報告第11号	平成27年度黒石市介護保険特別会計補正予算（第4号）について		○	○	○	○	○	承認
報告第12号	平成27年度黒石市観光施設事業特別会計補正予算（第2号）について		○	○	○	○	○	承認
報告第13号	平成27年度黒石市国民健康保険黒石病院事業会計補正予算（第2号）について		○	○	○	○	○	承認
報告第14号	平成27年度黒石市水道事業会計補正予算（第2号）について		○	○	○	○	○	承認
報告第15号	平成27年度黒石市下水道事業会計補正予算（第3号）について		○	○	○	○	○	承認
報告第16号	平成28年度黒石市一般会計補正予算（第1号）について		○	○	○	○	○	承認
報告第17号	黒石市承認企業立地計画に従って設置される施設に係る固定資産税の特別措置に関する条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	○	○	承認
報告第18号 ↳ 報告第22号	権利の放棄について		○	○	○	○	○	報告
報告第23号	平成27年度黒石市一般会計繰越明許費繰越計算書について		○	○	○	○	○	報告
報告第24号	平成27年度黒石市一般会計事故繰越し繰越計算書について		○	○	○	○	○	報告
議案第50号	黒石市遺児入学祝金等の支給に関する条例を廃止する条例制定について		○	○	○	○	○	原案可決
議案第51号	黒石市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	○	○	原案可決
議案第52号	黒石市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	○	○	原案可決
議案第53号	平成28年度黒石市一般会計補正予算（第2号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第54号	平成28年度黒石市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	原案可決
議案第55号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて		○	○	○	○	○	同意
議案第56号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて		○	○	○	○	○	同意



第2回定例会一般質問

一般質問は、6月16・17日の2日間行われ、10人の議員が市の諸問題についての質問をしました。



自民・公明クラブ
今 大介 議員
(一括方式)

問 一部新聞で小中一貫教育が報道されたが、当市における考え方は。

答 国の動向を踏まえ、将来的な小中一貫教育を見据えたうえで、今後、小中連携教育の推進を充実させたいという趣旨であり、黒石・中郷・北陽の統合小学校が、中郷中学校の隣接地に移転、新築することによって、すぐに小中一貫教育を導入するといった意味合いではないことをご理解願います。これまでの連携をさらに発展させた小中連携教育の推進に取り組んでいきたいと考えています。

問 平成32年4月の統合小学校開校に向けた今後の対応は。

答 統合実施計画の策定、統合準備委員会の設置、黒石市立学校設置条例の改正手続きなど、計画的に進めていきます。

問 小学校給食について、東英小学校だけ自校式でなく、東小学校との共同実施方式になった経緯は。

答 平成32年4月の小学校統

合時には、市内全ての小学校での完全給食を実現するため、財政面や学校の敷地など総合的に検討し、最善の方策であると判断しました。



自民・公明クラブ
大久保朝泰 議員
(二問一答方式)

問 六郷小学校の給食を早期再開する考えは。

答 六郷小学校の自校式給食は事故前の状態に復旧しなければならぬと認識しており、一日も早い給食再開に向けて努力します。

問 小・中学校適正配置について、スクールバス利用の考え方は。

答 スクールバスは、原則として統合後の通学距離が、小学校2キロ以上、中学校4キロ以上の児童生徒を対象に運行します。具体的な運用方法は、各統合準備委員会において協議・調整のうえ決定します。

問 六郷小学校給食用厨房爆発事故について、被害者家族へのケアは。

答 被害者家族への精神的なケアという点は不十分だったと痛感しています。去る3月

に被害者家族と面会した際、辛い日々を過ごされている心境をお聞きし、できるだけケアが必要だと思われました。今後は専門的な医療機関と連携しながら、ご家族の方々と連絡を密にし、ケアに努めます。

問 6次産業化の取り組みについて、現状は。

答 黒石産農産物の規格外品を活用した新商品づくりに取り組んでおり、黒石ブランドの一環として、レトルトスープを年内に発表したいと考えています。



新政会
三上 廣大 議員
(二問一答方式)

問 市役所庁舎について、震度6強以上の大地震時に倒壊または崩壊する危険性があるという耐震診断を受け、新庁舎を建設する考えはあるか。

答 同規模の新庁舎建設には数十億円という膨大な投資が必要であり、充実した補助制度も無く財源確保が大きな課題となっています。今後、既存施設の活用により、庁舎建設規模の縮小も考えられることから、経済性や利便性、市



黒石市民クラブ
後藤 秀憲 議員
(一括方式)

問 平成28年度の人事について、管理職の異動で経験を配慮していない理由は。また、人事異動のねらいは。

答 管理職については、これまでのキャリアや経験にとらわれないことなく、能力のある人材を登用しました。人事異



動は、年功序列的な考え方にとらわれることなく、先見性と広い視野を持ち、政策形成能力、人事管理能力等を兼ね備えた人材を登用しています。また、昇任に関しても、男女の別にとらわれず、意欲と行動力のある職員を選し、組織の活性化を図っています。

発が進めば頼もしい存在になると考えます。研究・試作段階ではありますが、少しでも早い実用化を期待しています。



黒石市民クラブ
工藤 和子 議員
(一括方式)

統廃合による予算上のメリットとしては、学校維持に係る燃料費、光熱水費、修繕料、通信運搬費、施設設備の点検委託料などのコストカットが挙げられます。また、長期的な観点では、将来的に必要なとなると考えられる校舎の建て替え費用が、学校数が減ることによって軽減されるというメリットもあると考えます。

農業用ロボットについて、活用する考えは。

現在、和歌山大学研究チームで「農業用アシストスーツ」が研究されており、開



自民・公明クラブ
工藤 俊広 議員
(一問一答方式)

それが昨年と比較して2倍程度の237軒、95経営体で作付面積は県内一番となっています。デビュー2年目となる今年は本番の年と位置づけられており、今後は、青森県を初め、関係機関と連携し、ブランド米の確立並びに水田農家の所得向上に努めます。

自主防災組織の現状は。

関係部課長で構成される黒石市庁舎等耐震対策庁内検討委員会を設置し、耐震対策の方針や耐震性向上の緊急対策などについて、調査検討しています。当面の軽量化や建替え、既存施設を活用した機能分散、財源確保などよりよい方策を探っていきます。

自主防災組織は現在5団体が組織されています。また、複数の団体が組織化に向けた取り組みを進めています。市としては、避難訓練などの経費として1団体上限5万円程度の補助をすることとしています。



高佑会
高橋美紀子 議員
(一問一答方式)

学校給食について、自校式決定に至った経緯は。また、六郷小学校給食施設に保険金は充当されるのか。

団員の充足率は860人の定員に対し808人で94割です。団員の地位向上のためには協力事業所表示制度のさらなる周知に努め、また、高校生を対象とした一日体験プログラム実施に向け関係機関と連携を図り、団員確保に努めます。

水道事業について、老朽管や老朽設備の現状は。

老朽管の更新は、2億5千万円の5年計画で着実に更新しています。総延長176km中、残り28kmです。電気系統の老朽化は年間5千万円で更新していきます。

健康推進について、一市民スポーツの取り組みは。

文化財めぐりとウォーキングを組み合わせた取り組みを行っています。今後は、体を動かすきっかけ作りを楽し

での分析はしていません。若い世代の定住施策については、生活の基盤となる仕事づくりが重要であることから、「田園観光産業都市黒石市におけるしごとづくり」による対策を行っています。市職員の市内居住率は73.4割です。職員採用の際には、優秀な人材を確保するため本市在住等の条件はありません。



自民・公明クラブ
大溝 雅昭 議員
(一問一答方式)

「子どもの貧困対策支援法」への当市の対応は。

国は平成26年1月に子ども貧困対策の推進に関する法律を施行し、同年8月に対策大綱を策定しました。県では今年3月に貧困対策推進計画を策定し、教育の支援、生活の支援、保護者に対する就労の支援、経済的支援の4つの基本方針を示しました。当市の子供の貧困率は不明ですが、国、県の各種施策に則って子供の貧困対策に取り組んでいきます。

選挙管理委員会と期日前投票所を移転した目的は。ま



た、投票率アップへの取り組みは。

○ 参議院議員通常選挙に向けて、有権者の利便性のために期日前投票所を市役所4階から市民文化会館センターホールに移転しました。あわせて、事務の効率化のために選挙管理委員会事務局も移転しました。投票率向上については、18歳選挙権への対応として、黒石高校で出前講座や模擬投票などを実施しました。また若い人に関心を持ってもらうため、投票立会人の公募・登録を導入しました。これからは期日前投票所を増やすことも検討します。



日本共産党
工藤 禎子 議員
(一問一答方式)

○ 国民健康保険行政について、国民健康保険税滞納世帯のうち所得なしから所得200万円未満の世帯が9割である。基金が4億3千万円あることから、1世帯当たり1万円でも引き下げは可能ではないか。都道府県単位は国民健康保険の医療費適正化とす

る削減であるが、どのように

考えているのか。
○ 2億1千万円ほど伸びている医療費に対して基金で対応するため、すぐに国民健康保険税を引き下げる考えはありません。都道府県単位化については保険者が県になることにより、医療費の増加や保険の収納不足に対する財政的不安がなくなると考えています。

○ 教育行政について、統合後の小学校は小中一貫校へ進んでいくのか。また、小中学生が1つの校庭を併用するのは危ないのでは。小学校の給食は、自校式から変更することはないと言いつけるか。

○ 小中一貫教育ではなく、小中連携教育の充実を考えています。校庭の併用については、十分配慮していきます。給食の実施方式は最終決定として公表したものです。



自民・公明クラブ
中田 博文 議員
(一問一答方式)

○ 市長の政治姿勢について、市長就任から2年経過しての感想は。

○ 就任早々、地酒による乾

杯を推奨する条例を制定しました。10月1日には、黒石市・宮古市姉妹都市締結50周年記念事業として「地酒まつり」を開催します。また、市民の健康づくりと短命市返上をねらい、健康都市を宣言したことで、市民の意識も向上されています。農業者の所得向上については、幻の銘柄ムツニシキを寿し米として復活させ、青天の霹靂と連携させるほか、くろいし植物工場推進研究会を立ち上げ、6次産業推進と並行しながら、黒石ブランドの確立にも努めています。観光面では、黒石駅前観光案内所を開設し、弘前駅からの誘客に取り組んでおり、少しずつ効果が表れています。これから、統合による給食施設の整備計画や新築校舎の建築、市庁舎の耐震など財政的課題が多くありますが、全力で取り組んでいきます。

○ ぷらっと号について、路線を見直す考えは。

○ 公共交通の見直しについては、国の基本方針で、公共交通に関する計画の策定などを経て見直すこととしているため、概ね3年以上必要となる見込みです。

黒石図書館づくり市民の会と さまざまな意見を交換



黒石図書館づくり市民の会が主催する市議会議員との意見交換会が、7月20日に開催されました。

同会は、平成10年から図書館設置に向けて強い要望活動を行っている市民団体です。この意見交換会は、高樋市長の行政運営における図書館設置の優先度や今後の展望について、議会としての意見を聞きたいという趣旨で同会会長である須藤重昭氏から申し入れがあり、総務教育常任委員会(工藤和行委員長)が応じたことで北山一衛議長、工藤俊広副議長、総務教育常任委員会委員が出席し、開催されました。



意見交換会の様子

須藤会長から「今回の意見交換会を前にして、新聞紙上で市長が図書館についての展望を述べており、大きな期待を持っている。議員の皆さんの力添えをいただいでバックアップしてほしい」と挨拶があり、北山議長は「これまで議会でも黒石市立図書館設置条例の制定を求める陳情を採択した経緯もあり、図書館を一刻でも早く設置してほしいという思いは議員も持っている。いろいろな話はあるが、設置する方向に進むためには、まず図書館設置条例の制定が一番肝心ではないか」との見解を述べました。

その後、同会会員と市議会議員との間で活発な意見交換が行われ、工藤委員長は「財政環境などが整ってきている中、市長も一歩踏み込んできている。議会も図書館設置に向けて、皆さんと意見を交換しながら力強く行動していきたい」と前向きな姿勢を示しました。



●議員活動報告

高佑会

(高橋美紀子)

視察先

滋賀県大津市

(平成28年5月16~20日)

【「市町村議会議員研修 新人議員のための地方自治基本コース」について】

全国市町村国際文化研究所で新人議員のための研修が開催されました。全国の25市12町2村から59名の新人議員が集まっていました。内容は、首都大学の杉野覚教授による「地方自治制度の基本」、山梨学院大学の江藤俊昭教授による「地方議会制度と地方議会改革の課題」、関西学院大学の吉田悦教教授による「地方議会と自治体財政」、東北大学の荒井崇教授による「地方議員と政策法務」、明治大学の山下茂教授による「分権時代の地方議会（議員）に期待されていること」でした。

講義ではもちろんのこと、質疑応答や意見交換ではより具体的な事例の話がありました。荒井教授の講義では、議会基本条例演習として、意見交換、発表、全体討議が行われ、講義後の交流時間では、各地域ならではの事柄や取組等を知ることができ、有意義な研修となりました。この研修で学んだことを今後の議員活動に活用し、市政に反映させていきたいと思ひます。



●議員活動報告

日本共産党

(工藤 禎子)

高佑会

(高橋美紀子)

視察先

三戸町

(平成28年6月13日)

【「小中一貫教育」について】

三戸町教育委員会を訪ね、小中一貫教育に関する現状等を伺い、小中一貫校である三戸学園を視察しました。

小等部は4年生まで、中等部は5年生から7年生まで、高等部が8年生から9年生までに分けられ、9年間をとおした系統的な教育を目指していました。成果としては、不登校数の減少、中学校での学力の向上、英語力の向上などがあげられました。また、「小学生と中学生がグラウンドを共用することの安全面はどうか」という点については、体育館はそれぞれにあり、グラウンドも2つあることから、支障はないとのことでした。当市議会でも「平成32年度から開校予定の統合小学校は中学校と隣接することから、グラウンドが1つでは安全面が確保できるのか」、「小学校高学年のリーダーの育成について」や「人間関係の固定化により、9年間いじめにあう子供も出てくるのでは」などを議員が質問し、対応を求めています。



●議員活動報告

自民・公明クラブ

(中田 博文・工藤 俊広
大溝 雅昭・今 大介
北山 一衛)

黒石市民クラブ

(工藤 和子)

日本共産党

(工藤 禎子)

高佑会

(高橋美紀子)

新国会

(三上 廣大)

視察先

東通村、六ヶ所村

(平成28年7月25・26日)

【「原子力関連施設の視察」について】

東北電力(株)東通原子力発電所や六ヶ所原燃PRセンター、日本原燃(株)原子燃料サイクル施設を9名の議員が視察しました。東日本大震災以降、原子力規制委員会による新規制基準の施行により、原子力関連施設にはこれまで以上に完璧な安全性と今後本格化する電力小売全面自由化による更なる安定した電力供給が求められています。今回、各施設の視察を通して改めて原子力発電の仕組みや従来の安全性確保に加え新規制基準のもとどのように安全性の向上に取り組んでいるのかを学びました。また、質疑応答の際には、多くの議員から原発の安全性についての質問や意見が出され、青森県の原子力問題について活発な意見交換の場となりました。原子力関連施設から遠く離れているから大丈夫という意識ではなく、原子力に対する正しい知識を得ることで、市民の防災意識の向上や今後設立予定の各地区自主防災組織へもしっかり役立てていきたいと思ひます。



民生福祉常任委員会活動報告

平成28年7月19日、民生福祉常任委員会(大久保朝泰委員長)は、認定こども園の「美しの森」と「東雲幼稚園」を視察しました。

美しの森は平成27年4月から保育所型の認定こども園になっています。東雲幼稚園は同年4月から幼稚園の中に保育機能施設を設置した幼稚園型認定こども園になり、給食も開始しています。視察した認定こども園からは「もっと子供を受け入れるには、保育士の確保が必要」、「毎週水曜日の午後、市内の小児科が一斉に休診してしまうので、輪番制などで対応できないか」、「認定こども園は保護者が就労していなくても保育ができ、保育料も軽減される。利用するようアピールしてほしい」、「認定こども園の実務を簡素化できないか」などの意見が寄せられました。委員会としては、さらなる現状把握に努め、できることから取り組んでいくことを確認しました。



認定こども園を視察



